

■ 石川と愛知の名物 男が刈谷に集結 報告：コマンドー金澤

1 月が終わる夕方に石川県協会と愛知県協会の名物男が愛知県刈谷市に集結した。

と、書けばカッコよく聞こえるが、今月号の取材の為に出来る限り先方さんの距離に近付きたいことで、足を運んだというのが正解だ。

昨年の秋ぐらいには、今年取材対象者として愛知県協会理事でもあり、D（ディスエイブルのベンチプレスチーム）を率いてきた高橋省吾さんを訪問する計画があった。丁度その頃こちらも FACEBOOK を手探りで始めたところで、加入直後に同じ愛知県協会理事の二宮正晴さんが友人申請をして下さり、高橋さんの取材について相談をしたところ、快く引き受けて下さり、二宮さんのお計らいで、勤務される天下の DENSO の福利厚生施設 D SQUARE で開催が決定した。

話しが 9 割煮詰まったところで石川県協会の森岡一義理事から「あの〜〜〜コマンドーさん・・・その座談会オレも行って〜〜〜」と申し出があった。

満場一致で可決（笑）

ということで、石川県協会から 2 名、愛知県協会から 2 名の合計 4 名が集まることになった。ここで岐阜県から山之内さんが来られたら完璧であったが、仕事の都合がつきにくい時期であったことが悔やまれ残念ながら欠席であった。

高橋省吾さんといえば、愛知県内の競技会では司会業務を殆ど担当されてることで有名であり、ユーモアたっぷりのアナウンスには何時も驚くばかりで知らん人は居ないでしょう。

今は居住地域の身障者の会の会長にも就任されて多忙な日々を送っておられる。

取材時間の確保がどこまで可能か心配であったが、D SQUARE に集結した瞬間にその心配はぶっ飛んでしまった。自分の取材スタイルとしては、基本的にレコーダーは使わず予め質問したいことをメモにし、備忘録に走り書きをしてキーボードに打つもので効率は良く無いかもしれない。

今回は取材時間が 2 時間、懇親会が控えてる関係もあり時計にとらめっこしながらの作業であった。挨拶も簡素に済ませ早速色々と訊ねてみた。敬称略

ー ベンチプレスを始める前の運動歴は？またベンチプレスを始めた切っ掛けは？

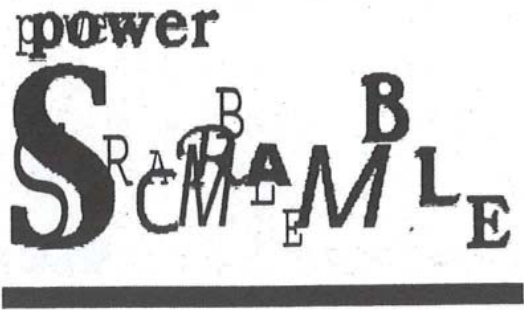
高橋「運動歴は柔道やってまして、補強にウェイトトレーニングを始めました。高 2 の頃にウェイトリフティング部、柔道部、野球部の 3 クラブで合同練習をしてました。野球部が三重県大会で結構いいところに行きまして、野球部中心にみんなでトレーニングをやりました。3 年生の夏頃に柔道よりもウェイトが面白くなり、ベンチプレスも 100 キロも挙がらず、奥が深いな〜と感じてました。

ー ウェイトリフティングのクラブがある学校って珍しいですけど、どこの高校でしたか？

高橋「日生高校です」

ー あ〜あの有名な・・・全寮制の学校で早朝から山間部のランニングから始まる強靱なメンバーを養成するあの有名な学校でしたか。自分の先輩刑事がこの卒業で、初任科教養の時も警察学校で 1 番やった話しがあるんですわ。

高橋「オートバイの事故後 1 年ぐらい入院して、車椅子の人らが病院に集まるんで、一緒に運動しないかって誘われました。先ずマラソンを 2〜3 年ぐらいやってみたんですけど、タイムが段々上がってくるんですよ。タイムをもっと上げるにはウェイトトレが必要とやり出したら、挙上重上がって、マラソンよりもウェイトの方が面白くな



り、或る日ボディービル雑誌（月間ボディービル誌の中にあった VIVA POWERLIFTING と思われる）に全米の選手が紹介されてたんです。120 キロ挙げてチャンピオンになった。

その頃刈谷でトレーニングしてて 100 キロぐらいは挙がってたんで、ひょっとしたら 120 キロ挙がるかもと思い、吉田さんに手紙を出したんですよ」

二宮「あれって、1995 年のブリッジストン体育館だったんじゃない」

高橋「それで吉田さんからディスエイブルの部門を設定するんで是非とも出場して下さいって言われ、130 キロ挙げて 1 位を獲りました」

ここまで話を伺ったところで大脱線してしまい、今 FACEBOOK の中で流行ってる昔の漫画「1,2 の三四郎」の話題で盛り上がり数分間が経過。聞き手のこちらもよく知ってるだけに脱線を助長させてしまった。

高橋「いや～それでですね周囲からも褒められて面白さが増すんですよ。もっと強くなりたいって思うようになり、刈谷の体育館は DENSO のメンバーがよくトレーニングに来るんで、交流もどんどん深まりそれから 20 年ですかね、ベンチシャツ着用で 150 キロ、ノーギアも 130 キロ挙がる様になりました。大堂くんとは同じ病院でした」

現在 J.P.A. 登録選手の大半が S.N.S. などで情報を公開したり提供したりされてるんで、或る程度のことは把握出来るが、発信者の一方的なことで実際には解りにくいこともあるかと思う。自分が足を運んで直接お話を伺うのは、人間臭さというか文面だけでは伝えきれないことを聞きたいことに尽きると言っても過言ではない。

実際高橋さんとは長年やりとりしてるが、知らない部分が多かった。聞きたくてもなかなか聞けず今回二宮さんが自分の都合に合わせて下さったおかげで結構掘り下げて聞く事が出来た。

一愛知では司会業として定番のポストに就かれてますが、始まった切っ掛けは？山之内さんからは二宮さんをお手本にされたって伺ってるが？

二宮「そうです」

高橋「愛知ベンチとかで、大体マサ兄さん（二宮さん）が司会やってて、「ちょっとお前やってみろや」みたいな感じで、名前や階級などを読み上げる最低限の方法を教わりました。でもね～失敗が多くスタッフに怒られるし、反省会ではみんなにダメだし喰らうんで、「もうやりたくない」って気分になりました。しかも春と秋に大会がありますから、自分の中ではへっこんだまんまでしたんで、テレビでやってるスポーツ中継の実況を見て研究しました。3 回目あたりで何とかなったが・・・・・・周りからは良かったんじゃないの？みたいなことを言われて」

一何や？めっちゃ失礼な！オレがそんな言われたら即行帰りますわ。なんぼ失礼やねん！

高橋「最初はマサ兄さんと自分とでコンビを組んで、途中からマサ兄さんのお嬢さんが出て来て・・・」

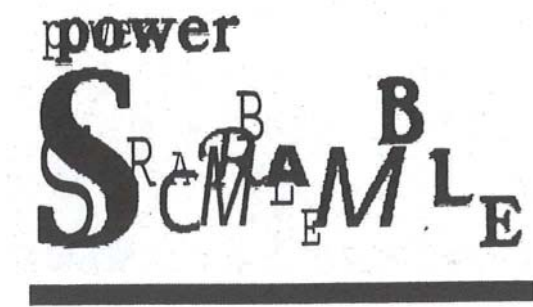
二宮「あ～あれは 1999 年岡崎の全日本ベンチあたりじゃなかった？」

高橋「各選手の下調べをして話すると選手に喜ばれました。記録カードに何か書かれて楽なんですけど、書かれてないときは困りましたね」

一それ、解りますよ。自分のときも近畿ベンチが京都で初めて開催されるときに司会に入ることになったんですけど、どないやってええか解らんので前日に沖浦さんに電話入れて相談しましたよ。大体似た様な環境ですね。自分もエントリー表だけは早く貰ってたんで、選手のデータ集めと所属ジムについて下調べはやってました。

一二宮さんの司会業も定評ありますが、大会前では色々考えられるんですか？

二宮「ボクの場合は如何に進行を上手く回すかということが先でしたね。事前に選手の記録カードをさらっと見る事はありますよ。あとは他の司会者の特性を見てます」



森岡「あの司会の席って非常に重要ですよ。上手く回すのもですけど、ルールを知ってないと話しにならないんですよ」

金澤「そうそう兄貴（森岡さん）、下手したら第2試技で重量変更いうて真顔で持って来る選手もありましたもんね。」

あれには参りましたわ」

一 高橋さんは愛知県協会の理事でありながら「D」を率いてた訳なんです、今はみんな夫々の方向性で違うチームに向かわれてます。このまま「D」のままで行かれるん

ですか？

高橋「現座は居住地域の身障者の会の世話役・・・会長に就任の為に多忙でトレーニングがままならないんですが、トレーニング自体は自身で何処でも出来るのもあります。ま～こちらがリーダーシップがなかったのも原因でしょうか」

森岡「でも、このDからはパラリンピックに出たメンバーが2名も居ますよね」

高橋「ま～方向性と言いましても、トップアスリートを目指すのではないですが、ベンチプレスやりながら仕事もする「パラリーマン」を目指せってところですよ」（室内大爆笑）

このパラリーマンという造語は、この瞬間に思いついたものと思われる。省ちゃんは1日にあらずということが解りました。

一 数年前にノドの不調で手術を受けてはりましたが、その後の経過はどないなんですか？その後も全国大会におけるスタッフ業務で何度も自分に声をかけてもらってたが、なかなか連携出来ず申し訳ない。

高橋「いや～大丈夫ですよ」

高橋さんのノドの手術により全日本ベンチ岡崎大会では自分がD.H.（指名打者）として選出されたのだが、ここからのエピソードについては来月号に紹介する。



最初は話しに余り入って来なかったが、ところどころで和ませてくれた、石川県協会森岡理事

話しが脱線して大爆笑になった二宮正晴さん（奥）と高橋省吾さん（手前）テーブルにあるのはコマンドー金澤持参の土産「芋焼酎あらわさ」と森岡さん持参の土産「加賀丸いも」これがあるだけで5分は脱線してた。



power SCRAMBLE

■アジア・オセアニア クラシック大会で新潟 県の星田選手が大活 躍！！

報告：新潟協会

理事長 相馬満信

第一回アジアオセアニア地区クラシックパワーリフティング大会に出場した五泉F Cの星田千鶴子さんが地元新聞、新潟日報の下越地区版で紹介されたそうです。星田さんは、健康指導士として、トレーニング教室でパワーリフティング指導もしておられ、競技でも、指導面でもご活躍されているとのこととです。

ことき

パワーリフティングのマスターズ部門で優勝 星田 千鶴子さん (61) 五泉市



13カ国から選手が集い、昨年12月にオーストラリアで行われた「第1回アジア・オセアニアクラシックパワーリフティング選手権大会」(国際パワーリフティング連盟主催)のマスターズ部門で優勝した。全日本の大会で1位となつてついでに切符「海外まで行った方がいいがあつた」とほつとした表情を見せる。

パワーリフティングは、あおむけの状態からバーベルを挙げるベンチプレス、しゃがんで立つフックリフト、床のバーベルを上げるデッドリフトの3種をこなし、全体の成績で競う。60歳の部門である「マスターズ3」女子63kg級に出場。メルボルンにあるホテル内のホールを会場に開かれた本番で、それぞれ65kg、100kg、110kgをクリアし、出場4人のトップになった。

12年前から取り組んでいる。それまで子育てなどではばく運動から遠ざかつていた。子どもが手を離れ時間があったことで、「体力づくりと健康維持のために」と五泉市総合会館内でまず筋力

鍛錬12年、バーベル高々

トレーニングを始めた。同じフロアで練習していた、ベンチプレスなどの愛好家であつた五泉フィットネスクラブのメンバーに声を掛けられこの道に。クラブの仲間とともに週2、3回、夜に練習に励む。

競技を始めてすぐのデビュー戦では悔しい思いをした。3回トライできるベンチプレスで1度も挙げる事ができず、失格となった。「競技の難しさを痛感し、一生懸命にトレーニングしたと当時を振り返る。この競技を始めたとことで「風邪をひきにくくなり、足腰も丈夫になった」と感じていた。同年代の女性と比べても、体はよく動くと思ふ。

日本パワーリフティング協会が認定する生涯健康指導士として、市内の65歳以上を対象とした筋力トレーニング講座とあって教えている。「ベンチプレスなどは何歳から始めてもできる競技だと思う。足腰を鍛練して、健康寿命を延ばしましょう。今後は底辺拡大にも力添えをしていきたい考えた。

「トレーニングのアジアオセアニア大会で優勝し「メルボルンまわりのあつた」と話す星田千鶴子さん＝五泉市

■ 伊東亜細亜 さんの思い出

東京都パワーリフティング協会の理事長、相談役を務められ、日本協会本部役員を長く務められた伊東亜細亜さんが、2月永眠されました。

亜細亜さんとの思い出では、本当にたくさんあります。



power SCRAMBLE

海外遠征もよくご一緒させていただきました。

特に思い出深いのは、旧ソ連がモスクワに日本のパワーリフティングを招聘してくれたとき、ソ連の協会から、飲料水と渡されたのは、納豆のにおいのするような、水でした。日本選手は、お手上げでしたが、亜細亜さんはおいしいおいしいと、次々と瓶を空けられました。何でも、食べてみよう、何でも、経験してみよう、という方でした。車が大好きで、北陸の試合に

連れて行っていただいたことが有りました。当時、ソアラを乗っておられた亜細亜さんは、180キロの猛スピードで、関越、北陸道を飛ばして、あっという間に、会場まで着いたことが有りました。

写真は、2004年、インドで開催された、アジアベンチプレス選手権大会、M3の部、75kg級で優勝された時のものです。パワーリフティングでは、東京のパワー充実、発展にご尽力され、また、その手腕を買われて、JPCの本部でも、ご活躍されておりました。ここ、2年ほど体調をこわされ、治療中でした。



豪快、快活、広い視野を持って生き抜かれた、伊東亜細亜さんを思い返し、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

(編集部、吉田寿子)

